東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2008年5月16日

イスラーム と 芸術

ムスリムの皆様。イスラーム世界の傷の１つが、イスラームと芸術が結び付けられないでいることです。しかし芸術は、イスラームにおいてとても重要なものです。なぜなら「アッラーは美しく、美しいものを愛される。」というハディースが、ムスリムを芸術に近づける最も重要な要素であるからです。

芸術は、真実へいたる為の１つの道です。しかし、考えることができる頭脳、感じることができる魂にとって、なのです。少しでも考えることができる人にとって、芸術とは真実そのものなのです。知識によって、芸術によって、愛情によってアッラーに到達する人の信仰は、真の、そして美しい信仰であるからです。抑圧によって生じたものや、真似によってできた信仰ではない、ということです。このような信仰は、地上の最も頑丈な城よりもなお、堅固なものです。

「私のアッラーは美しい、だからアッラーは美しいものを好まれる」という考えで行動するムスリムは、アッラーの美しいお方という特性、芸術作品を創られるお方という特性、比類ない作品を創られるお方という特性をよりよく捉え、また天国についてもよく理解できるようになります。

しかし、美的なものと全くつながりを持たない人、バラの香りを感じることがない人、愛する人に花を贈ることのない人、１本の木も植えることのない人、微笑を向けることを知らない人が、どうやってアッラーを知ることができるでしょうか。どれほど知ることができるでしょうか。この観点からも，真実に到達する為に芸術の影響があることを否定することはできません。

ムスリムの皆様。信仰、生き方、価値観が異なる集団から生まれた芸術作品は、当然、それぞれに異なっています。ムスリムは、命あるものの絵や像を創ることを肯定的に捉えてきませんでした。だから、このテーマにおいては特に発展した芸術家や芸術は存在しません。そしてこの状況を見て、ムスリムは芸術や芸術家に重きを置いていないという結論に達するべきではないのです。

イスラームが人物画や人物像に対して否定的であることは、ムスリムを木の彫刻、石の彫刻、陶工、書道へと向かわせました。そしてこの分野においては、他の文明ではあまり見られないほどの傑作を生み出してきたのです。

イスラームは堅実さを要求し、浪費や贅沢を否定します。イスラーム芸術においては、その華麗さにもかかわらず、堅実さが強く見られます。一部の例外を除いて、浪費や贅沢と言った点が目に付くことはありません。イスラームの作品では、恐ろしい、ぞっとさせるようなシーンを目にすることもありません。反対に、人をひきつけ、やすらぎをもたらし、楽にするものが多いです。それが存在する環境、集団に適したものとなっているのです。

高度な芸術作品は、高度な文明が生み出します。健全な信仰は、努力、忍耐、愛情、能力、細やかな精神、美的感覚が生み出すのです。アッラーが、この世界を物質的、精神的穢れから清められ、芸術を高められ、信仰を持ち、確固たる意志を持ち、品性ある次世代をお恵み下さいますように。このような世界が形成され、このような次世代が育成されるうえで、私達を奉仕させてくださいますように。